

理想の保健体育教師像について

—滋賀県と京都府を比較して—

清水 さより (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：理想の教師像，保健体育教師，求められる教師像

1. 緒言

私たちは、小学校から現在に至るまで多くの先生と出会ってきた。今まで指導を受けてきた先生の中には、好きな先生もいれば嫌いな先生もいただろう。

最近では、教師の問題行動が連日報道されており、学校や教育委員会などの信頼を失わせているのが現状だ。筆者自身、教師を志す上で、理想の教師とは何かを常に考えてきた。

本研究では、中央教育審議会答申や各都道府県が求める理想の教師像とアンケート調査から得られた児童・生徒が求める理想の教師像を比較し、筆者自身の理想の教師像を確立させることを目的とする。

2. 研究の方法

アンケート調査は、先行研究「理想の教師像について」(馬渡庸介, 2009) で用いられたアンケート用紙を使用した。各項目において、体育授業場面・部活動場面・生徒指導場面・先生の間人性についての4つのカテゴリーに分けて選択式で回答を求めた。調査は、滋賀県と京都府の小学校・中学校・高校・大学(大学は、滋賀県のみ)で実施した。

3. 結果と考察

①体育授業場面における理想の教師像は『声かけ(相互作用)が具体的で適切にできる』ことが求められた。

②部活動場面における理想の教師像は『指導力』があることが求められた。

③生徒指導時における理想の教師像は『平等に対応できる』ことが求められた。

④先生の間人性における理想の教師像は『人

として尊敬できる』ことが求められた。

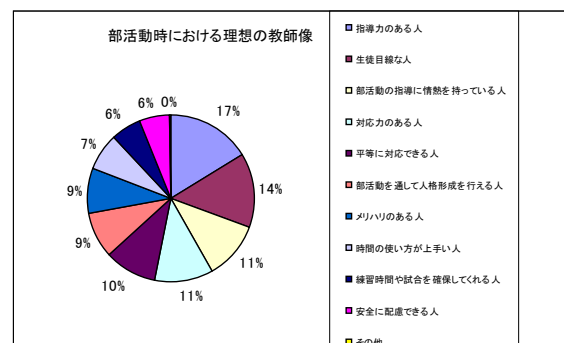


図1 滋賀県の高校生の部活動における理想の教師像

4. まとめ

私の理想とする保健体育教師像は、まず第一に『指導力』があることである。教師自身が、高い専門知識と運動技能を持っていないといけない。授業時、部活動時、生徒指導時においても指導力は欠かせないものである。他にも、『対応力』と『行動力』が必要である。どんな時でも平等に接することができ、なおかつ児童・生徒を尊重できる思いやりのある教師が求められている。教師である前に、社会を代表する一人の大人だという自覚を忘れてはいけない。

また、教師自ら行動することで、主体的に情報を発信し、児童・生徒の将来により刺激を与えられる太陽のような教師になりたい。

引用・参考文献

中元貴也 (2012) : 「こんな先生求めます」 教職課程 7月号, 協同出版, 8-38

馬渡庸介 (2009) : 「理想の保健体育教師像について」, びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究